

IV 教育計画

【1】現職教育(外国語活動)

研究主題 **Let's enjoy English**

～楽しく学び、伝え合う外国語活動をめざして～

1 はじめに

本校では、平成11年度より、「総合的な学習の時間」における国際理解教育の一環として、学校放送番組を活用したりボランティアの外国人英語講師を招聘したりしながら、「英語活動」を楽しく進めるための研究に取り組んできた。

平成15年度から平成18年度までは和歌山県のイングリッシュパワーアッププログラム事業の研究指定を受け、3年生から6年生までについては、総合的な学習の時間を活用して、年間60時間、ALTと学級担任のティーム・ティーチングで、英語活動を実施した。その結果、開始当初はALTに対して緊張していた児童も、英語活動の雰囲気慣れ、楽しく活動できるようになった。また、英語表現についてはALTの発音を集中して聞き、それを真似ることで、英語らしい発音が身についてきており、身近な事柄や日常生活に関する英語を聞いたり話したりして、英語活動に親しもうとしている児童が多くなってきた。しかし、取り組みを進める中で、恥ずかしがって自分の思いを伝えられない児童やALTとの英語活動を積極的に楽しめない児童も見受けられることから、児童の発達段階や興味関心に合ったカリキュラムの必要性や英語量の増加した高学年の児童の個人差への対応、個に応じた支援の在り方などの課題が見えてきた。

そのような課題を踏まえて、平成19年度からは、小学校英語活動等国際理解活動推進事業の文部科学省指定を受け、「楽しく学び、伝え合う英語活動をめざして」をテーマに研究を進めることになった。

指定1年目である平成19年度は、学年別の年間計画を整備して、英語活動の教材教具やカリキュラムの開発を進めた。また、昭和女子大学の小泉清裕先生の講演や校内研修・研究授業等、教員の英語活動指導力の向上をはかるための取り組みを行った。

指定2年目である平成20年度は、児童の発達段階・興味・関心等をしっかり把握し、児童が楽しく活動できる英語活動の内容や方法の研究に全校で取り組み、「英語を話すことに抵抗がなくなってきた。」「日本以外の国や文化について興味関心が高まってきた。」「教師の指導力の向上」といった成果が見られた。

平成21年度からは、新たに「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業」の文部科学省指定を受け、Let's enjoy English ～楽しく学び、伝え合う英語活動をめざして～を研究主題として、研究を進めた。

社会のグローバル化が進む今日、世界の国の人々と積極的に関わり、異なる文化や文明との共存・協力していくことが、今後ますます重要になると思われる。昨年度の研究では子どもたちの興味関心を刺激する教材開発を行い、授業に取り入れていくことで、子どもたちが意欲的に活動するようになってきた。また、子どもたちは外国への興味関心が高まり、教師の指導力の向上にもつながってきた。

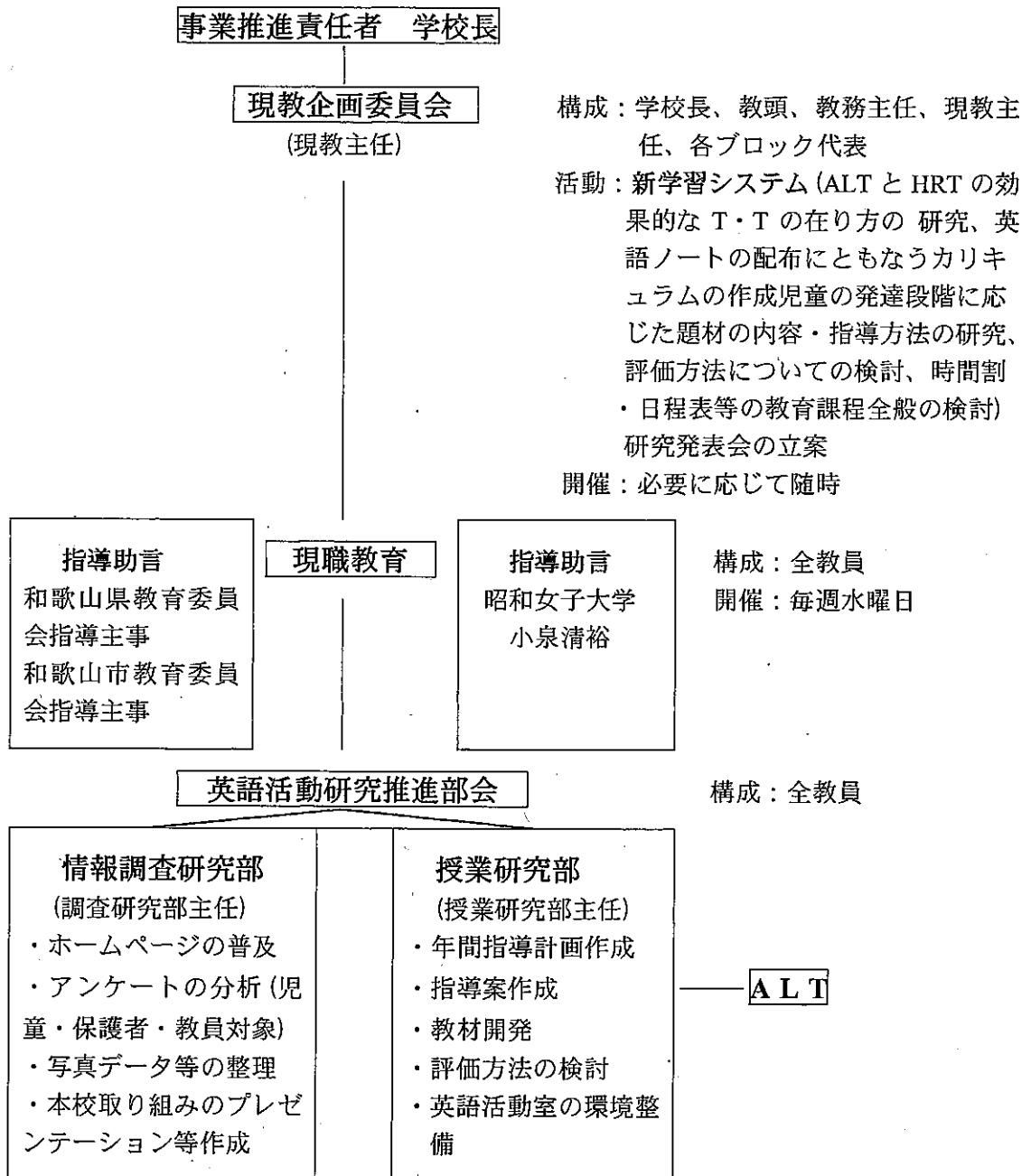
こうしたことから本年度も、昨年度までの研究の内容を引き継ぎ、教材開発や教材の活用方法、さらには子どもたちが生き生きと活動するための評価の場面や方法について研究に取り組み、本校の児童に、積極的に他の人とコミュニケーションをとろうとする意欲や態度、異なる言語や文化を理解し、お互い尊重し合おうとする心情を育てたいと願っている。

また、外国語活動の研究に取り組むことで、国際的な視野をもち、相手を理解したり、自分を表現したりする楽しさを児童・職員が意識し実感できれば、学習活動だけでなく、学校生活全体がより豊かなものになると考えている。

2 外国語活動（英語活動）の教育課程上の位置づけ

- ・第5・6学年においては、外国語活動の時間に、各学年ごと週1時間、年間35時間程度実施する。
- ・第1・2学年においては、学級活動等の時間を活用して、外国語活動を用いた学級づくりや国際理解活動を行う。
- ・第3・4学年においては、主に総合的な学習の時間を活用し、国際理解活動として年間15時間程度行う。

3 研究組織・体制



4 研究の内容

①教員の指導力向上のための取り組み

- ・ 県内の拠点校・先進校の英語活動研究会に参加し小学校英語活動の基本理念や今後の進め方について、共通認識をはかる。
- ・ 英語運用能力を高めるためにクラスルームイングリッシュの研修を進める。
- ・ 教員の指導力向上のため、昭和女子大小泉清裕先生による指導講話やワークショップを実施する。

②指導方法の工夫改善

- ・ 英語ノート配布にともなう新カリキュラムの作成や授業の進め方を検討していく。

③評価の在り方について

- ・ 各学年ごとの目標を定め、それに基づいた評価規準を作成する。
- ・ 授業の中で、適切な評価の場面とよりよい評価方法を研究する。

④児童の興味・関心等学習状況の変容の把握

- ・ 児童の英語活動に対する意識調査を行い、その分析をもとに指導方法の工夫改善を行う。

⑤ ALT や地域人材等の効果的な活用

- ・ 地域に住む外国人との交流活動を行う。
- ・ ALT の出身国の文化を紹介してもらうなど、ALT を効果的に授業の中で活用し、学級担任がマネジメントする授業の取り組みをさらに進める。

⑥ その他（中学校との連携、ICT の効果的な活用等）

- ・ 小中連携を進めるために、中学校に本校の活動を普及し、英語教員との交流を進める。
- ・ インターネットで調べ学習したことを英語活動に生かせるようにする。
- ・ 英語活動を行うための学習環境を整備する。

5 取り組みの年間スケジュール

- 4月 今年度の研究の方向の検討と確認・文部科学省の英語ノート（仮称）を活用した新年間指導計画作成
- 5月 教材研究
- 6月 教材研究と校内研究授業・前期アンケート実施
- 7月 教材研究と校内研究授業・1学期の反省
- 8月 拡大夏季研修会
- 9月 2学期の計画・教材研究
- 10月 教材研究・校内研究授業・後期アンケート実施
研究発表会開催（5・6年生研究授業）
- 11月 教材研究と校内研究授業
- 12月 教材研究と校内研究授業・2学期の反省
- 1月 研究紀要作成
- 2月 平成22年度の反省
- 3月 来年度の研究の方向について検討

6 研究成果の普及

- 研究発表会やホームページを通して、積極的に授業公開を行い、成果の普及に

努める。

7 研究経過

- 平成10年度・・・「総合的な学習の時間」創設に向けての研究実践
- 平成11年度・・・小学校教育課程「総合的な学習の時間」文部省研究指定校
11/17 教科等別研究会で「総合的な学習の時間」研究発表(1年次)
- 平成12年度・・・小学校教育課程「総合的な学習の時間」文部省研究指定校
6/30(2年次)研究発表会開催
- 平成13年度・・・和歌山市の研究指定「国際理解教育」
10/17 教科等別研究会で「国際理解教育」英会話(英語活動)発表
- 平成15年度・・・和歌山県指定 English Power Up Program 事業
年間60時間(3～6年生)にALTとT.T.で授業を実施
- 平成16年度・・・和歌山県指定 English Power Up Program 事業
年間60時間(3～6年生)にALTとT.T.で授業を実施
小・中合同研究発表会を本校で開催(4年生『ハロウィーンに親しもう』を公開)
- 平成17年度・・・和歌山県指定 English Power Up Program 事業
年間60時間(3～6年生)にALTとT.T.で授業を実施
- 平成18年度・・・和歌山県指定 English Power Up Program 事業
年間60時間(3～6年生)にALTとT.T.で授業を実施
小・中合同研究発表会を本校で開催(5年生『Do you know this country?』を公開)
- 平成19年度・・・文部科学省指定 小学校英語活動等国際理解活動推進事業
12/17 研究発表会開催(5年生『The world wide Christmas』を公開)
- 平成20年度・・・文部科学省指定 小学校英語活動等国際理解活動推進事業
11/28 研究発表会開催
(5年生『いくつ de Show!』・6年生『将来の夢 I want to be ~.』を公開)
- 平成21年度・・・文部科学省指定 外国語活動における教材の効果的な活用及び
評価の在り方等に関する実践研究事業
11/6 研究発表会開催
(5年生『Our School』・6年生『Map Peekaboo』を公開)